

平成28年度 第1回精華町子ども・子育て会議

会議録要旨

1 日時

平成28年9月2日（水）午前10時00分～午前12時00分

2 会場

精華町立図書館1階 集会室

3 出席者

・委員長・委員 10人

谷口委員長、早樫委員、石崎委員、飯田委員、石井委員、田中委員、
地主委員、伊藤委員、木村委員、芦田委員

→ 精華町子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により、本会議の成立を確認

・傍聴者 0人

4 会議内容

- 開会
- 健康福祉環境部長あいさつ
- 新任委員紹介

○議事

(1) 精華町児童育成計画 精華町子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

・地域子ども・子育て支援事業進捗状況について

事務局より資料1、チラシ2枚に基づき説明

<質疑応答・意見交換>

◆事務局

・精華町児童育成計画 精華町子ども・子育て支援事業計画の中にある12の事業について、平成27年度の実績について状況を説明。

【利用者支援に関する事業】

・計画では平成27年度、1か所確保することとなっており、実績としては、子育て支援センター内で1か所実施。子育て支援センターに専任の保育士資格を持っている者を置いて実施。

・子育て世帯包括支援センターを視野に入れ、京都府主催の研修に平成27年度は4名の職員を受講させた。

【時間外保育事業】

・保育所は午前7時から午後7時までの12時間開所しており、通常保育時間（8時30

分から4時まで)を除く前後の部分を時間外、保育延長保育として実施している。

- ・計画406人に対し、実績(申請された分)は341人。若干計画よりも少ないが就労形態等の状況により、その年によって多少の変動はあると思われる。実績としては確保量の中で納まったという結果

【放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)】

- ・計画501人、実績515人。実績は一年間の平均。途中入所もあるが、4月が一番多く3月に向けて退所していくため、平均という形で実績をあげている。
- ・若干確保量をオーバーする。小学生の全体数については減少傾向にあり、計画策定時の見込みでも児童数は減少するとして推計していたが、学童利用者数については、平成28年度の入所数が既に27年度を100人近く超える申し込みが4月にあり、確保量を今後見直さなければならないと考えている。
- ・進捗状況としては公営9か所、民営2か所で実施。平成28年度申込数が予想よりも超過し、昨年度若干の待機が出たため、平成28年度から川西児童クラブを第1、第2と分割し、保健センターの2階で第2クラブという形で運営を開始している。
- ・平成28年度4月の時点で待機を出さず運営できているが、途中入所も含め、多数申し込みがあり、人材確保が困難となっており、入所困難な場所も出始めている。

【子育て短期事業(ショートステイ事業)】

- ・確保量83人日、実績60人日。児童施設大和の家に委託して実施している。
- ・この事業は保護者の病気等の理由により、家庭において教育を受けることが一時的に困難となった児童を預かるという事業。その年の経過やいろいろな状況を踏まえた上で、一定確保できたと考えている。

【乳児家庭全戸訪問事業】

- ・生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境の把握・助言等を行う事業。
- ・出生されたすべての児童が対象。確保量280人、実績296人。予想よりも多く子どもが出生されたという結果。確保量と差はさほど出ていないと思われる。
- ・この296人については保健師または助産師がすべて4か月までに訪問。どうしても連絡がつかないお宅については、3、4か月検診の時に状況を把握するという事で事業を進めている。

【養育支援訪問事業】

- ・乳児家庭全戸訪問事業を実施する中で特に養育が必要とする家庭に対して、子育て支援課の家庭相談員と健康推進課の保健師が連携し、家庭訪問を実施する事業。
- ・確保量22家庭、実績14家庭。延べ訪問数51回。乳児家庭全戸訪問事業を実施した上で必要かどうかの判断を行うため、一定の数字については変動するものとする。確保量に対して必要な事業の実施はできたと考えている。
- ・この中には子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業を踏まえている。要保護児

童対策地域協議会において 2 か月に 1 回実務者会議を実施。情報共有ないし、ネットワークをするという考えで要保護児童対策地域協議会に構成されている機関の実務者レベルでの会議を開催している。進捗管理やその要保護児童の状況管理をしている。昨年度は年 6 回開催。専門性の強化のための実務者研修は 2 回実施した。

【地域子育て支援拠点事業】

- ・確保量 7,000 人日、実績は倍程度の 13,480 人日。子育て支援センターのセンター型 1 か所とひろば型 2 か所で実施。ひろば型 2 か所については、かしのき苑で NPO 法人そらに委託して実施している「さんりんしゃ」と子育て交流広場と書いているひかりだい保育所を運営している千祥福祉会が独自で実施しているものに補助をしている。この 2 か所を引いた数がセンター型として子育て支援センターで実施している分。
- ・子育て支援センターを開設する以外に、講座等の取り組みを実施し、事業への参加を促進している。人数を累計すると確保量の倍の人数になっているがそれぞれの事業を実施する中での結果となる。

【一時預かり事業（幼稚園における在園児を対象とした預かり保育）】

- ・確保量 9,022 人日、実績 6,195 人日。町内の私立幼稚園 3 園全てで実施して頂いた結果。比較すると若干少ない結果にはなっているが、延長保育と同じでその時の必要不必要のその時の現状があるため、事業としての進捗はできていると思われる。

【一時預かり事業（その他）】

- ・ひかりだい、せいかだい保育所の民営委託の 2 か所で実施。2 か所の実績として 2,837 人、結果として若干ニーズに対して少ない現状、現在 2 か所でしか実施していないため、若干数増やしていかないといけないという傾向にあると考えるが、それぞれ各園の中でできる範囲で実施。今後もこの 2 園で一時預かりを実施したいと考えている。

【子育て短期支援事業（トワイライトステイ）】

- ・ショートステイが日帰りをメインにしている事業とは別に対象者は父子、母子を対象に始めた事業。保育所が終わってからや児童クラブが終わってからの延長的な預かり事業。平成 27 年度の実績はなかった。

【病児病後児事業】

- ・確保量 780 人日、実績 36 人日の実績。学研都市病院に委託している。病児病後児事業は就業等により保育所・放課後事業を利用されている親御さんが保育所等では病気のお子さんを預かれないため、その際に利用してもらう事業となる。確保量に対し、実績量が少ない結果となっているが、年によって子どもさんの病気になる数は変動するため、一定確保できていると考える。実績については必要とされる方が 36 日人しかいらっしやらなかったという結果。
- ・平成 27 年度から木津川市と共同委託し、事業費をそれぞれの負担割合で分担している。今後についても木津川市と共同委託で実施していく予定。

【子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポーター・センター事業）】

- ・確保量 956 人、実績 0 人。計画通り 27 年度に検討し、昨年度の本会議でも議案として挙げ、平成 28 年度から精華町社会福祉協議会に運営委託している。平成 28 年 4 月から準備し、7 月から事業を実施。
- ・本事業は援助会員と依頼会員がおり、見てもらう方と必要な方がいて、公助組織として事業を運営する。1 枚目のチラシが援助会員募集チラシ。
- ・援助会員は応募すればできるわけではなく、24 時間の養成講座を修了しなければ活動できないため、応募者 19 名に対して全ての講座を修了した 10 名の援助会員が現在いる。チラシで 7 月 1 日から依頼会員の募集を行い、7 月 20 日から稼働。今現在に至る。始めて 1 か月あまりのため、会員の登録数は多くない。これから社会福祉協議会と力を合わせて広報を行っていく。

【妊婦に対して健康診査を実施する事業】

- ・確保量 422 人に対して、実績 341 人、3094 回。予定数より若干少ない数字。事情があつてこられなかった等により多少の変動があるかと考えている。国が示す妊婦検診の基準を満たす形で実施。合わせて妊娠届け出時に妊婦検診を無料で何回か受けられる券を配布し実施している。

◇石崎委員

- ・乳幼児の家庭全戸訪問について精華町に助産師と保健師は何名ずついるか

◆事務局

- ・細かい数字が手元にないが、産休代替等含め約 10 名。助産師は正規職員がおらず、嘱託職員のみ。第一子については基本的に保健師がすべて訪問し、第二子以降については助産師が訪問するかたちで分担している。

◇岩崎委員

- ・嘱託職員の助産師の数は何人か

◆事務局

- ・登録者は 5・6 人いると思う。単発事業になるため、常時来ていただいているのは 2 名となる。ただし、保健師は母子担当となっており、各小学校区に配置。第一子目については保健師と助産師がペアになって訪問に行っている。その後の複数回の訪問については助産師が訪問を行っている。常時役場に専属的にいる職員は 7 名程度。

◇石崎委員

- ・進捗状況について説明頂いたが、資料として増減などの詳しい数字を乗せた資料を用意してほしい。

◆事務局

- ・詳しい数字を載せた資料を準備する。

◇田中委員

- ・地域の子育て支援センター事業について子育て支援地域パートナーがかなりの負担

を担っている。報告の中できちんとそういうことも上げてほしい。水面下だけではやる気も下がってくる。他の事業も含めてこういう場で報告を上げてほしい。

◆事務局

- ・来年度以降の報告の中でご指摘いただいた部分も含め、もう少し具体的に報告できればと思う。

◇石崎委員

- ・ファミリー・サポート・センター事業の人数ですが、現在依頼会員は 4 名、援助会員は 11 名うち 2 名が両方会員です。
- ・各種事業のネットワークがどうなっているか伺いたい。単発事業の中でもネットワークを作ってやっているのかも合わせて伺いたい。

◆事務局

- ・事業としては 12 の事業として報告する形になっているため、このようなかたちで報告させていただいた。基本的には国が示す子育て包括支援センターを視野にいれながら、子育て支援センターが絶対的な中心になり連携を図る。ネットワーク（事業連携）については、先ほど申し上げた母子保健や保健師、子育て支援課が例えば本日のように協議会というかたちではないが、要保護児童対策地域協議会では相談員を含んだ形で情報共有等のネットワークを構築している。

◇石崎委員

- ・報告する際にそういった目に見えない部分についても報告して頂きたい。

◇木村委員

- ・病児病後児保育については住民さんに知られているのか

◇谷口委員長

- ・平成 27 年度の報告を受けて、29 年度以降計画の確保数の見直しが行われるのか教えてほしい。

◆事務局

- ・病児病後児保育については必要な方はまず、事前に登録いただいている。登録数は 200 から 300 名程。学童と違い本来預かる場所保育所等が預かれない場合に預かる場所となっており、健康なお子さんが多ければ、必要ないものとなるし、病気時に会社を休めるような状態が整っていれば、利用者数は少なくなるため、数は少ないほうが良いと考える。
- ・周知できているかという面では、子育て情報誌「すくすく」に掲載している。

◇石崎委員

- ・「すくすく」はどれぐらい印刷しているのか

◆事務局

- ・2、3,000 冊印刷

◇石崎委員

・どれぐらい配布できているのか

◆事務局

・2,500冊程度配付。年度末にはほぼなくなる。基本的には子育ての必要な方には全て配付できていると思う。

◇石崎委員

・その配布方法は？

◆事務局

・対象者が来られるような場所や病院に設置。それ以外は窓口や関係機関で配付している。印刷部数は子育て支援に賛同いただいている企業や関係団体からの協賛金で作成しているため限りがあるが、年々増えており、平成29年度については協賛金のみで作成できる予定。

・保育所、学童を利用される方は特に病児病後児が必要と思われるため、申込時にお渡しする手引きの裏面に案内を掲載している。入所者、利用者の手元には全てこの案内を行っている。その中で必要と思われる方が登録される。

◇飯田委員

・乳幼児全戸訪問の際に配付してはどうか

◆事務局

・訪問時には全て持って行っている。刷り上がった時点で保育所、幼稚園に配付。子育てサークルにも配っている。小学生以上の方には学校には配れていないため、転入の際に窓口で配布している。配れる部数が増えればまた配布する箇所は検討する。

・精華町児童育成計画の進行管理のためのアンケート調査について

事務局より資料2に基づき説明

<質疑応答・意見交換>

◆事務局

・精華町児童育成計画の進行管理について計画の進捗管理をしていく中で評価・点検をしなければならない。どういった方法で進捗管理をするか提案したい。

・平成27年度に策定した「精華町児童育成計画 精華町子ども子育て支援事業計画」はこうあるべきという指標を立てて目標達成するものではなく、「こういう街にしたい。こういう部分のところを取り組みたい。」というところに重きを置いた計画となっているため、何%できたというような進捗ではとらえにくい。

・「計画における、施策の体系（一覧）」で「子ども」を応援する施策、「子育て」を応援する施策、「地域ぐるみ」で子ども・子育てを応援する施策の3本を柱にそれぞれ施策領域として5本に分けて計画を作っている。平成14年から児童育成計画があるが、3つの施策に対して5つの施策領域というかたちで施策を展開している。

・平成27年度に作成し、1年経つ中で、住民アンケートをとり、この計画を満足され

ているか、何が重要とされているか、というところを一つの指標として調査したい。

- ・アンケート調査はこの平成 27 年度 3 月に策定する前に 1 度実施している。それを「参考資料」として添付している。
- ・調査した結果どうなるのかというところを図表で説明させていただいている。
- ・アンケート結果として集計し、領域に分けたかたちで分析していき、この計画が今どういう状態かを確認していきたい。
- ・満足度と重要度があり、満足していてなおかつ重要と感じているものが「B」、満足度は高いが重要とは思っていないを「A」、満足度は低いが重要度が高いものが「C」、満足度も重要度も低い「D」となる。
- ・どの程度満足しているか満足度を確認して、計画が進行されているか確認する。基本的には「C」、「D」の部分が今後この計画を進捗していく中で補っていかないといけない重要な部分になる。結果を受けて具体的にどうするか、今後の展開についてはご議論いただけたらと思う。できるだけ対象者の方にアンケートを配付し、平成 28 年 12 月中に実施したいと思う。

◇谷口委員長

- ・まず、アンケートの実施について意見をいただきたい。次にアンケートでよければ、アンケートの内容についてご意見を伺いたい。
- ・もう少しどういう世帯の人にどのように配って、どのように回収するのか、また前回のアンケートではどの程度の回収率があったか、教えてほしい。

◆事務局

- ・前回は平成 23 年度 10 月に実施。無作為抽出ではなく、直接配付して回収することで身近なアンケートとして実施。保育所、放課後児童クラブ、精華町支援学校親の会（南山城支援学校）、乳幼児健診にこられる受診者の方に任意という形で配付し、郵送での回収では回収率が一般的には下がるため、できるだけ施設で直接お渡しいただいて回収した。それ以外には子育て世帯ではなく、民生児童委員、子育て地域パートナーといった子育てに関わってくださる方に配付した。
- ・平成 23 年 10 月時は合計で 1,358 件の方に配付。回収率は 31 パーセント程度。500 件余りの回収。

今回についても全戸配布も一つの手だが、施設を通じて配付予定。幼稚園についてもお願いし、施設から渡し、回収率をあげたいと考えている。

◇谷口委員長

- ・アンケートを実施する自体のことについてなにかご意見ありますでしょうか。

◇田中委員

- ・賛成です。

◇谷口委員長

- ・郵送となると思いの強い方のみが返信してくるようになるため、回収率をあげる方

法を考えて実施できたらと思う。もちろん幼稚園も協力させていただく。幼稚園に通園している方の意見もこの計画に反映できたらと思う。

◇田中委員

- ・できるだけ他のアンケートと重ならないように実施してほしい。

◆事務局

- ・他のアンケートもあることから一応平成 28 年中とさせていただいている。どうしても他のアンケートと時期が重なる場合は年度内中に時期をずらして実施することも検討する。計画作成時にニーズ調査を 10 項目というかたちで実施したが、量が多いと途中で嫌になるため、できるだけシンプルにし、なおかつこちらの思いをくみ取れる形でアンケートを実施したい。

◇木村委員

- ・今度ある子ども祭りで配付してはどうか

◆事務局

- ・もう少し中身を検討しなければならないため、10 月の子ども祭りには間に合わないと思われる。了承をいただいたので、進めさせていただくが印刷等準備もあるため、10 月中は難しいと思われる。

◇田中委員

- ・子ども祭りでは子どものみを対象としたアンケートも実施しているが、年々回収率が悪くなっている。事業内容を考えた上でアンケートは実施しなければならない。

◇谷口委員長

- ・アンケートを取るという方向でできるだけ費用をかけずに、効率よくできるような方法を考えてほしい。続いて内容について意見を聞きたい。

◇芦田委員

- ・区分について、ひとり親世帯かどうかをアンケートでご回答いただくのは可能か

◆事務局

- ・世帯状況の確認ということか？この場で答えられない為、検討させて欲しい。

◇地主委員

- ・それに関連して、記入例に書かれているものが目標として施策に落とし込まれていると理解してよいか。平成 23 年度では施策領域の中に発達領域というのが明確に記載されていたが、今回は良い意味で計画の中にインクルーシブとした考え方で子どもの中での障がい児ということで計画の中に含むようなかたちになっているので、記入例の中には記載がなく、埋もれてしまったのかなと思う。
- ・左側の施策のところと文字が濃くなっているところと薄くなっているところがある。薄くなっているところは回答の中にはあまり反映させていないところということか。
- ・子ども全体のことに對して評価してもらう場合にはこの記入例でできると思うが、その中でもひとり親家庭や障がい児がいる家庭はこのアンケートでは結果が表れて

こないと思う。対象人数が少ない中でアンケートを実施していくと結果を出すため、
どういう工夫をしていくか。記入例として書かれているところの書き方をもう少し
変えていくのか、対象者の属性を記入してもらい集計をしていくうえでクロスをか
けていけるようにするのか、考えた方が良いと思う。

◆事務局

- ・色の濃淡は関係ない。前回から名称が変わったところが薄くなっている。
- ・ご指摘のとおり施策一覧という形ではわかりづらいため、前回のアンケートでは目
標というかたちで満足度調査を行った。前は明確に発達領域について出していた
が今回その部分はないが、施策領域を見てもらえればその施策がどこに入っている
かわかるため、ご理解いただけたらと思う。世帯を書いてもらうかどうかは検討さ
せていただきたいと思うが、クロス集計できるように考えていきたいと思う。その
上でできるだけその部分は反映できるようにしていきたいと思う。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局より説明

◆事務局

- ・大枠の計画として、今年度で計画策定後 2 年経つ。計画は 5 年となっているため、
来年については中間年にあたり、見直しするかは別にアンケートを踏まえた上で、
もう少し会議の回数を増やした上でその分を重点的に進めていきたい。

(3) 意見交換

◇芦田委員

- ・学びの広場について